



発行日 令和2年 11月 10日
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)
 発行責任者 脇田 幸三
 連絡先 大山崎町歴史資料館内
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289
 URL <http://www007.upp.so-net.ne.jp/ofg/>

第 1 6 2 号 乙訓景観十景、天王山夢ほたる公園

天王山「秀吉の道」陶板画 竣工秘話

大山崎町役場経済環境課

参与 林 亨



平成5年、近畿で進められている歴史街道構想の一環で、あるプロジェクトが幕を開けた。

それが天王山「秀吉の道」陶板画プロジェクトである。仕掛けたのは歴史街道構想の中心を担っていたPHP研究所で

あった。山崎合戦で名高い天王山に合戦に関わるモニュメントを作って歴史街道戦国時代の目玉に育てようという計画である。

大山崎町で起こった山崎合戦は歴史の教科書にも載る有名な戦いであるが、古戦場には何も残っていないし、合戦を感じられる資料も町には何も残されていない。そこでPHP研究所は合戦を身近に感じることができる目玉を考え出した。天王山の山麓から山頂にかけてのハイキング道に秀吉の天下取りストーリーを展開するモニュメントを造ろうというもの。大山崎町にこのプロジェクトが持ち込まれた。

予てより天王山のさらなる活用を考えていた町はプロジェクトに参画を決めた。プロジェクトチームが結成される。メンバーは歴史街道構想の生みの親である作家で経済評論家でもある堺屋太一氏、大河ドラマの時代考証で度々登場する歴史研究家の小和田氏、同じく脇田氏、そして日本画家の岩井氏で構成された。何度も検討会が開かれPHP研究所から

の案を手直しして決定されたのが天王山「秀吉の道」である。この絵とは、信長の死から始まり、中国大返し、山崎合戦、光秀の3日天下、天下人秀吉で構成するというもの。山崎合戦には合戦図屏風が存在しない。だったら新たに描けばよい。と言うことで委員の先生方で素案を作り岩井画伯が6枚の日本画に仕立てた。次いでこの日本画をどんな素材に写し変えてハイキング道に設置するのかわという問題に突き当たった。一般的な印刷では10年もすれば退色するシムパクトも少ない。合戦図屏風に相応しいものとは。PHPが画期的な案を出した。

当時まだほとんど一般的ではなかった陶板絵画で仕上げてはどうかと言うのである。この手法を製品として作成していたのは国内でまだ1社しかなかった。滋賀県信楽町にある大塚オーミ(株)である。

早速、工場見学に出かけ転写された作品を実見した。見事な出来栄である。「これで行こう」と委員一同の声が上がった。平成8年岩井画伯の描いた山崎合戦図屏風絵他が大塚オーミに持ち込まれ、高さ180センチ、幅60センチの陶板に焼きこまれた。やがて完成した陶板は天王山に持ち込まれ2年掛けてハイキング道の5箇所を設置。足掛け5年のプロジェクト「秀吉の道」の竣工となった。

今から思えばあの時に天王山「秀吉の道」プロジェクトに参画出来て大変幸運だった。あの時だからできたプロジェクトだと言える。思い切って実行したことで今、天王山ハイキング道を利用される多くの人や歴史ファンに親しまれている。これらも末永く山崎合戦の語り部となることを願ってやまない。

9月～10月の活動実績

1. 主なガイド
- ・10月1日(木)大阪府北部コミュニティカレッジ 30名
 - ・10月17日(土)「旗立松」「瓦窯跡公園」定点ガイド
開始(11月29日までの土・日・祝)
 - ・10月25日(日) ポレポレ 11名
 - ・10月28日(水) 大阪府高齢者大学校 40名
 - ・10月30日(金) 神照院整備 8名
2. 会の行事など
- ・9月22日(火・祝)「あちこち学習山歩」(天王山) 16名
 - ・10月27日(火)「あちこち学習山歩」(洞ヶ峠) 22名
- ☆ 大山崎町文化のつどい(パネル展示で協力参加)

活動予定

- 主なガイド、行事予定
- ・11月11日(水)長岡京市ふるさとガイドの会 幹事会
 - ・11月7日(土)「ウエーブ産経」 1班
 - ・11月14日(土)「ウエーブ産経」 2班
 - ・11月18日(水)神足小学校・4年生 全班
 - ・11月21日(土)「ウエーブ産経」 3班
 - ・11月24日(火)あちこち学習山歩
 - ・11月28日(土)長岡京市泉ヶ丘自治会 3班
 - ・12月1日(火)NPO法人大阪府民カレッジ高槻校 1班
- ☆ 大山崎町歴史資料館 第28回企画展
- ・10月31日(土)～12月6日(日)「描かれた山崎合戦」

9～10月 ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		旗立松・定点		瓦窯跡公園・定点		合計	
9～10月	3件	81人	件	人	76件	320人	28件	50人	107件	451人
令和2年度累計	3件	81人	件	人	76件	320人	28件	50人	107件	451人

子ども達と本

～わたし こんなん しています～

リュートの楽しみ

地域の子ども達に、毎週水曜日「竹の子文庫」を開き、本の貸出しと読み聞かせをしています。子ども達が、本にふれあい、本の楽しさに出会う環境の場を提供し、本好きな子どもに育てほしいと、本の紹介や読書推進活動をしています。出前では学校、公民館、保健センター等へ紙芝居、読み聞かせ、クラフトを上演し交流しています。「大人も子どもの本を好きになるう」がスローガンで、子どもの本はホットし大人も愉しめます。「Book オアシス」と言ったところでしょうか。

子どもの為の地域連携事業で、大山崎町子ども推進事業運営委員会に於いて企画運営をしています。2つの小学校と公民館で開催し、子ども達の興味と関心をひく体験学習を考え実行するのは楽しいです。

地域の子ども達と仲良くつながり遊んでいます。そして、若さと元気をもらっています。(今はコロナ禍で距離をあげ、マスクして気を付けています)

(3班 上田 幸代 記)



まだ昭和の時代、朝のラジオから流れた古楽器の響きがリュートとの出会いであった。もっと聞きたいと思ってCDを探したが、ラジオで耳にした曲も見つからない。通勤で住んでいた円団から阪急長岡天神へ向かう途中の看板に「リュート」の文字を見て、その音楽教室を訪ねて、リュートの楽器や音楽について教えて頂いた。無謀にも、この楽器をやってみたいと思ったのはその時、毎月2回ほど通って、手ほどきを受けるようになった。

この楽器は日本の琵琶に似た弦楽器で、指の爪を短く切り揃え、弦に当たらないよう手入れが必要である。柔らかく弦を弾いて音色を楽しむ。メロディーやハーモニーが聞こえると嬉しい。楽器をどう構えるといい音が出るか、は永遠のテーマである。今ルネサンスやバロック時代の曲に挑んでいる。毎年のコンサートが励みになり、楽しみでもある。年のせいか指のしびれがあって、指盤を押さえ、離すという動作が難しくなったが、練習と工夫によってリハビリの効果をも求めている。今年のコンサートは1月、前にやった曲を含めて楽しみたい。

(4班 市川 孟 記)

自粛下の社寺巡り—あちこち史跡散策

コロナ禍で外出自粛による巣ごもり生活から抜け出すため、長岡京市ふるさとガイドの会の史跡ガイド本を持って、長岡京の社寺巡りをやり始めました。

3月末から半年で50余りある場所を観て歩き、それから少し足を延ばして京都市外の史跡観光地まで出かけ、「あちこち京都散策」の冊子を作りました。

散策の中で2、3特記すると、寂照院では千手観世音菩薩の前に座って、ご住職から当寺の歴史をお聞きし、本堂裏にある古墳石室を見学、孟宗竹発祥地の竹林へ。近くの走田神社では樹木が2年前の台風で倒れ、鳥居前から天王山を眺望できます。暫く歩くと竹林の奥に長法稲荷神社に行きます。今まで知らなかったことや新しい発見が色々あります。

5月の観光シーズンは、伏見稲荷天満宮の朱塗り千本鳥居の通り抜けや清水寺の参道などはインバウンドや他府県からの来訪者は皆無であり、静寂な中をのんびりと一人歩きを堪能しました。今秋はGOTOトラベル客はあるが、年内は外国人客がないので観光地訪問のチャンスかと思えます。

各寺で多くの仏像を参拝したが、その中で萬福寺の韋駄天像は素晴らしかった。昨年大河ドラマで金栗四三の「いだてん」が有名になり、泉涌寺舍利殿の裏板壁に描かれた韋駄天が特別公開されました。

萬福寺の韋駄天は背が高く、足が速そうな像である。今は「麒麟がくる」のドラマで丹波の城跡がある山々を眺めながら、光秀の足跡巡りをやっています。

(3班 野尻 裕三 記)



萬福寺の韋駄天像



篠山城からの八上城跡

ご存じですか

「山崎の定鉢」

室町期の公卿だった一条兼良が編んだ『尺素往来』には、<祇園御霊会、今年殊に結構。山崎の定(シツメ)鉢、大舎人の鵠(カサトギ)鉢、処々跳(ヲドリ)鉢、家々笠鉢、風流の造山。八撥、曲舞、在地の所役、定めて神慮に叶う歟。>の記述があります

また足利尊氏や義詮が棧敷席を設けて風流(久世舞車・定鉢・作山・鉢まど)を見物したという記録もあります。

油商人として知られる大山崎神人がある時期から担う鉢となっていったのかも知れません。

上記の資料で、その繁栄の一端が垣間見えます。(河内 将芳氏「祇園会を見物するということ—室町期における—」から引用)

(1班 吉田 陸治 記)

あちこち学習山歩④

天王山 秀吉の道 陶板画の清掃

8月24日(月)9:00、桜公園に集合した、18名は、密を避けるため4班に分かれて、作業を開始しました。3月から、コロナウイルス感染予防のため、活動を中止していましたが、近場で、乗り物を使わず、を条件に、天王山の清掃作業となりました。草を引いたり、陶板画に水をかけ、汚れを落としました。たくさん水や、掃除道具を背負っての登山に始まり、猛暑日とコロナ禍、ということで、無理のないよう短時間で切り上げ、山頂でゆっくり休憩の後、椎尾神社や桜公園、小倉神社方面に分かれて下山しました。

8月26日付け、京都新聞で紹介された記事を見て、陶板画を点検された人もおられるとか。その後登ってみて、すべての陶板画が、以前より、とても色鮮やかできれいだと感じ、この活動の成果を実感しました。

(4班 和泉奈緒美 紀)